

# ふしみさらダボール子育て情報



「言葉と絵本」

令和5年6月14日号

板橋富士見幼稚園



## 絵本の世界はおとぎの世界

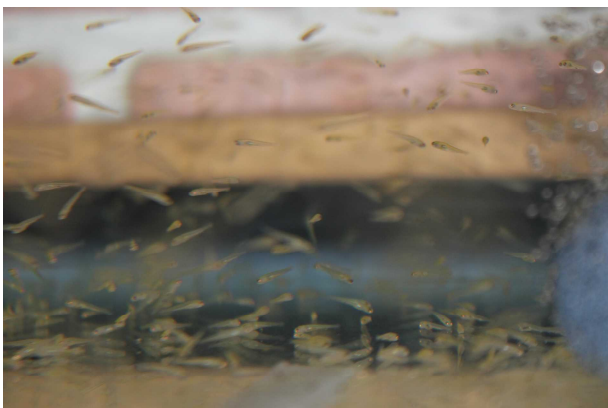
絵本は子どもにとって、今居る場所から全く別の世界へ誘う不思議な力を持っています。絵本の扉を開くと、そこは出会ったことのない不思議な世界です。子どもたちは、小さな入り口からそっと中に飛び込み、メルヘンな世界の旅が始まります。空を飛び回り、森の中を駆けめぐり、海の中を泳ぎ回る……大冒険です。そして鳥と語り合ったり、森の動物と一緒に食事をしたり、海の中でイルカや亀の背中に乗って海底深く散歩をしたりと、楽しい出会いも次々とやってきます。

このように、子どもたちは絵本を読むことで、現実の世界と虚構の世界を行き来することができます。大人からすると、嘘をついているように思うことも、子どもたちにとっては全て本当にあった出来事になるのです。

ある日幼稚園で3歳児が、2匹の小さな恐竜の顔と顔を向き合わせ語り合せていました。恐竜になりきって会話をしているのでしょうか、それとも大きな恐竜を下から見上げて語り合いを聞いているのでしょうか。きっと大人には想像もつかないような不思議な世界が広がっていることと思います。

絵本に限らず、こうしたメルヘンでファンタジーな世界は、こども達の好奇心を揺さぶり、言葉を次々と学習していくきっかけになります。

ファンタジーな世界に夢中になっている場面を見かけた時は、そっとしておいてあげてほしいものです。きっと、絵本の扉を閉めたとき、ため息と共に周囲をぼーっと見渡すかもしれません。そんな時はいきなり現実世界に戻さず、ファンタジーな世界の余韻を味わう姿を見守ってあげてください。



【池の鯉が産卵し、たくさんの赤ちゃんが生まれました！  
事務所前の水槽にいます。ぜひご覧ください🐟】